

うるさいが勝ち

岡部冬彦*

To the Complainer Go to the Spoils

Fuyuhiko OKABE*

写真の交差点は、わが家のすぐ近くであって、画面の右へ10mばかり行ったところの右側の石垣の上にあるのがわが家である。写真の正面は国鉄のガードで、この上を三複線が手前から貨物線、高崎線、京浜東北線と走っていて、ご覧の通り、この線路と平行にコンクリートの崖下を割合に広い二車線の道路が走っている。手前からこの道路と交差して、ガードをくぐっている道路も二車線だが、こちらにやや狭く、この交差点で右へかなり折れており、線路と平行な道が直線で先まで良く見えるのに比べると、こちらの道路は良く見えない。



また左右の道路が、一方は線路のコンクリートの崖、一方にわが家の石垣と隣りの駐車場の崖で、谷間を走るようになっていて、これに交差する手前の道路も、左が駐車場の崖、右が住宅のコンクリートの崖で、どちらも緩い坂で谷底へ下るような道路になっているから、どちらの道路からも左右の見通しが極めて悪い。

そのためか、ここは比較的事故の多い交差点になっていて、このごろでは、家の中にいて事故の大小の見当がつくようになったくらいのものである。つまり、キョードカンというのは、音が派手な割には大きな事故ではなく、いきなりドカンという方が事故として大きい。キョードカンはブレーキを踏んで止まりきれずに衝突するのだが、ただドカンというのは、どちらもブレーキを踏む間もない、いわゆる出会い頭というやつだからである。

この写真は、いろいろ出来の悪い交差点につけた横断歩道のものなのだが、まず、どちらの道路にも歩道がない。白線で区切った歩道さえ無いところへつけた横断歩道だから、このように横断歩道を歩いて向う側に渡ると、そこは、コンクリートの崖が眼前に立ちはだかつていて、ここを登る以外、理論上はどこへも行けないことになってしまう所が、写真で見るように3か所ある。もちろん、この道を歩いている人達は、適当にやっているから、車対車の事故は多くても、車対歩行者という事故は、私はまだ知らない。

とにかく不可思議な横断歩道のある交差点なのだが、もちろん、ここには自動交通信号がついていない。他の場所で、私が見てさほど必要度の高くない所にも信号のついている例があるが、そのような所は、どうもその近所の人が、いわゆるその筋に陳情したり、うるさくいうかららしい。ところがこの交差点は、すぐ近くに家はあるが、四つ角のうち二つはご覧の通りの崖、あとの二つのうち一つは駐車場、残りの一つは住宅のコンクリートの崖の続きで、母屋とはかなり離れている。つまり四つ角のどこにも、うるさくいったり、陳情したりする人間が住んでいないのである。ことに二つの角の上は、国鉄の線路だから、下で何か起ころうと、ガードに被害さえなければ「我関せず」である。

どうも、交通信号の必要度というのは、人や自動車の交通が決定するものではないらしい。

*漫画家 Cartoonist

原稿受理 昭和57年1月11日